

心

心のスイッチ

昨日で夏休みが終了し、本日より前期後半がスタートしました。夏休みの間、中学校には大きなトラブルや事故等の連絡がありませんでしたので、夏休み直前の全校集会でお話した「失ってはいけないもの①命、②信頼、③学力」を実行したのだろうと思います。さて、来週から早速前期期末テストが実施されます。夏休みの成果を存分に発揮して欲しいと願います。また、9月には多くの部活動で新チームの大会(新人戦等)が予定されているように、さらでも頑張ってきたことを発揮してください。

例年、夏休み明けの学校生活を見てみると、なかなかスタートをうまく切れない生徒も少なくありません。「いつやる気を出してくれるのか。」「保護者の方々からそんな言葉をお聞きしたこともしばしばあるのがこの時期です。」

いざ道を歩き出すとき、「最初の一步」があります。最初に強く思う(念ずる)ことが大事です。どちらの方向に最初の一步を踏み出すか、それが念ずることになるかと思えます。

それも大事ではありますが、しかしながら、「いつ」スタートするのが中学生にとっては大事になってきます。まさしく、「いつやる気」に目覚めるかという事です。

例えば、人間の目や耳は、不思議なもので、見よう・聴こうとする「心のスイッチ」が入っていないと、認識できません。頭のはたらくきも同じことのようにです。私自身の鈍い頭でも、「よし、やるぞー!」と心にスイッチを入れると、何かしらはたらき始めるものです。

元京都大学総長であり、脳解剖の世界的権威者の平澤興先生は、「野良猫と飼い猫の脳をそれぞれ比べると、野良猫の方がずっと発達している」ことを見ることができると、「とお書きになっています。私が以前の勤務先の帰り、夜道に野生の鹿と遭遇しました。私が鹿の前を通り過ぎてミラーで見ていると、信号が赤になり、車が

止まったところで鹿は国道を横断していました。スイッチを入れておかないと生きていけない、「生きる」ことの厳しさが野生生物の脳を発達させたのでしょう。

ずいぶん寒くなったがいつまでも寝床の中でグズグズしてないで

心のスイッチをポンと押して パツと飛び起きようではないか

ポンとスイッチを押すと パツと明かりがともるように

朝起きも ポン・パで行こう

テレビの前に座っていれば そりゃおもしろいよ

でもいい気になっていると テレビのいいなりになってしまうよ

ポンとスイッチを切つて パツと勉強に切りかえようではないか

勉強も ポン・パで行こう

ポン・パ ポン・パ ポン・パで行こう

また、東井義雄先生が小学校の校長先生を務められていた時、教室に「ポン・パで行こう」というスローガンがありました。それを見た東井先生は、もったいないから学校全体で「ポン・パで行こう」と呼びかけられました。

それを聞いた高学年男子が朝、目が覚めた時「ポン・パ」を思い出し、寒い中「ポン・パ」と叫んで起きました。外では雪が積もっていて、新聞配達の方が来る前に除雪してあげようと考えました。「ポン・パ」とかけ声をかけながら除雪していると、隣のおじさんがス「ッパを持ってきて」「ポン・パって何?」と訪ねられました。

男の子は、「朝起きでも何でも『ポン』と心にスイッチを入れて、『パツ』とやる気持ちよくできるし、元気が出るんです。」と答えました。すると二人で「ポン・パ」と声を掛け合いながら除雪をしたことを日記に書かれていたこの事です。

いつ心に「スイッチ」を入れる(やる気)に目覚める(か)…。大変なことなのですが、何気ない小さなことにも「ポン」と心のスイッチを入れて、「パツ」と自分の体を動かす…。そんな積み重ねが、心構えの習慣になっていき、人生の大事なときに「やる気」が出る人になるのです。そして、そうやって身についた習慣は、その人の第二の天性になっていくものなのです。

参考文献

「いのちの教え」

東井義雄